

砂鉄採りに歓声

大原小6年生 力合わせ50キロ

一関市大東町の大原小学校（小島正明校長、児童146人）は13日、同市大東町大原の内野地区



で砂鉄採り体験を行つた。古くから製鉄の歴史を持つ地元の文化について学ぼうと、6年生23人

が川の中から砂鉄を探した。

砂鉄の採取は地元のボランティア団体ホッパの会（勝部正平会長）の会員5人が協力。運動着や水着を身に着けた児童は

2カ所に分かれ、素足にサンダル履きで川に入るなど、電磁石を使って砂鉄を集めた。

同会員が農具などで岩をよけた所に電磁石を近づけると、砂などと一緒に多くの砂鉄が付き、児童が歓声を上げていた。

砂鉄川の中に電磁石を入れて砂鉄を探る大原児童が、いざなみに砂鉄を採る大原小児童が歓声を上げていた。

芳賀梨玖君は「身近な川だが、思ったよりも砂鉄が採れてびっくりした」と話していた。

砂鉄取り体験は旧内野

小学校時代から継続し、18年目。内野地区は良質な砂鉄を産出する砂鉄川の上流部に当たり、江戸時代以前から明治時代初期ごろまでは製鉄も行われていた。

同日は約50キロ分の砂鉄を採取。9月には製鉄も体験する予定で、同会の勝部欣一事務局長は「子供たちが地元の歴史について興味を持つきっかけにしてほしい」と話して